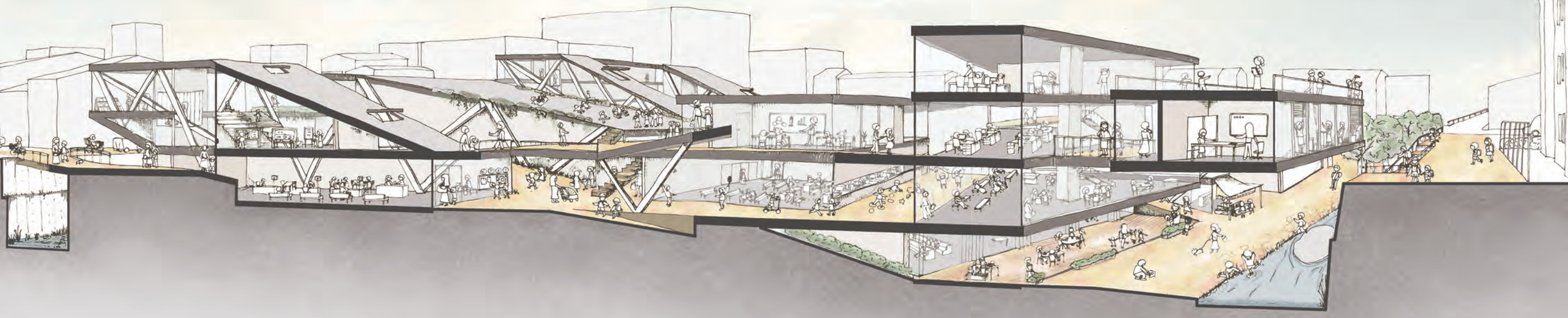
まちみぞ

ー抜けと溜まりの庁舎の提案ー



大阪市内の密集市街地に住む私にとってまち単位で地域のつながりを感じたことはない。
けれど、家の前の路地を媒介とした路地単位におけるお隣さんたちとのつながりは日々感じて育った。かつて私が遊ぶ様子を親だけでなく、この路地住民全体で見守るという日常風景が広がっていた心地よさ。
そんな見守られた路地空間を『まちみぞ』と私は名付ける。

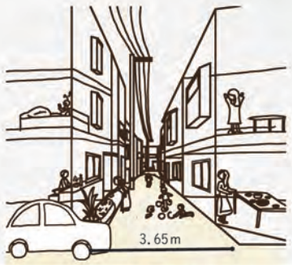
01 『まちみぞ』スケッチ

私の家の前のスケッチ

大阪市内の木造密集市街地に住む私の家は奥が行き止まりの細い路地空間に面する。



他者から見た印象：ただの路地



私が感じる実家前の印象：見守られたみぞ空間

＝まちみぞ と名付ける

都会においても、路地はお隣さんたちとつながりを感じられる空間であるため、路地単位でコミュニティの形成を行うべきだと考える。

家の前のアクティビティスケッチ



02 『まちみぞ』をもつ公共建築の提案

近年の都市における路地消失問題

近年道路の整備や集合住宅への建て替えにより、車のための道となり、このようなまちみぞ空間は消失した。この変化は拍車がかかる一方ならば、この住宅スケールのコミュニティの作り方を公共施設に応用させ、まちみぞ空間を継承させたらよいのではないか。

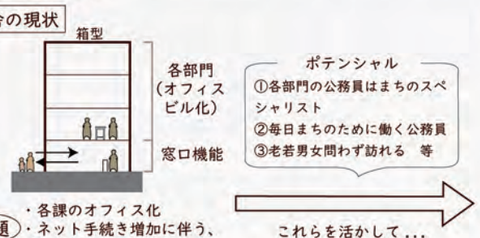


路地に面した住宅　マンション化　車のための道へ整備

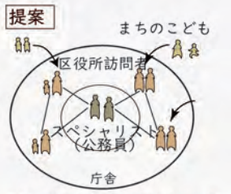
プログラム

箱型化した公共建築を『まちみぞ』によって解体する。
まちの人々の暮らしを支え、地域の賑わいの創出を目標に掲げる庁舎は、地域の拠点となるポテンシャルを持ち合わせるにも関わらず、そのビジョンに値する空間に至ってないことから本提案では庁舎を題材とする。

庁舎の現状



提案



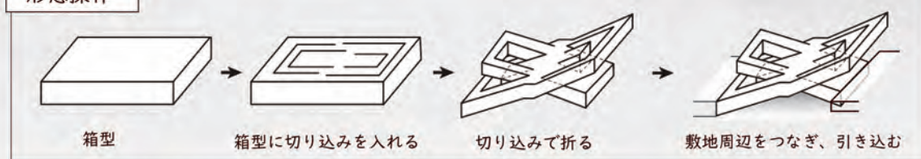
まちの情報発信や情報共有の拠点かつ通りぬけることも留まることもできる場を構築する。

03 『まちみぞ』を生む形態操作

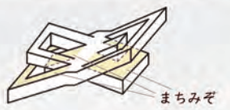
公務員　区役所訪問者　こどもたち

抜けと溜まりの両立が可能な形態を何度もスタディを行い、以下の操作を提案する

形態操作

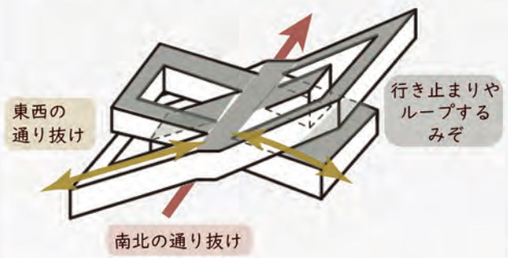


折り紙をおるかのような操作によって **連続的** かつ **ループ状** にみぞ空間ができる。
できたこのみぞ空間に『まちみぞ』を挿入し、
各みぞの部分で公務員と街の人々の関係を再考する。

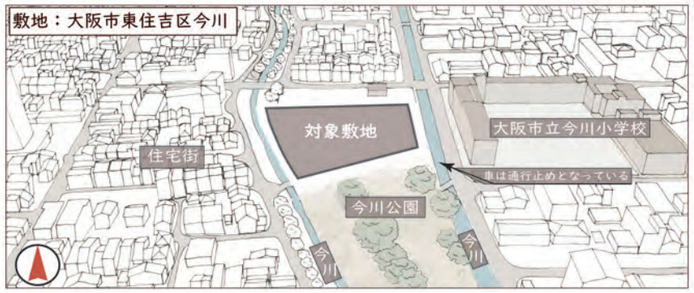


全体構成

形態操作によってできる3つの空間

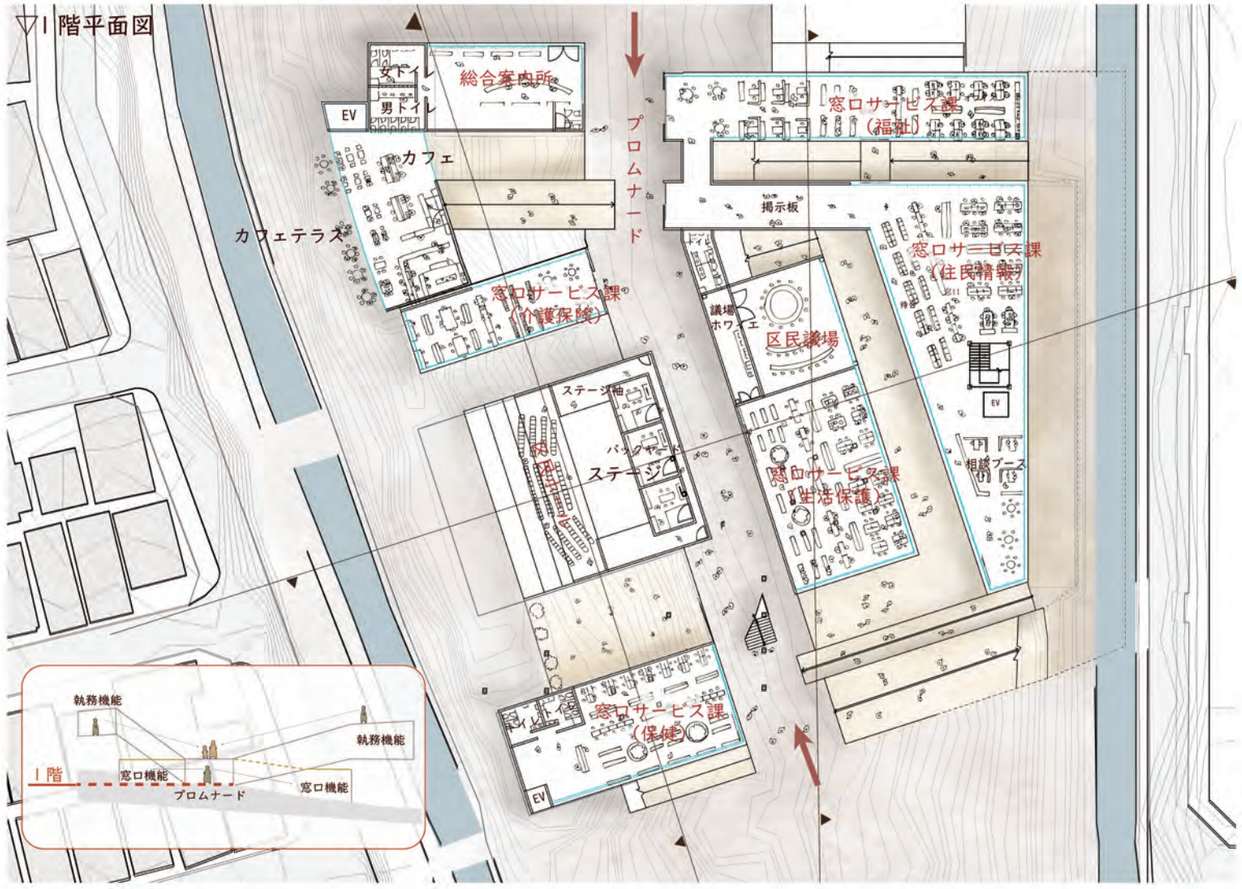


東西の通り抜け	→	抜けのまちみぞ
行き止まりやループするみぞ	→	溜まりのまちみぞ
南北の通り抜け	→	庁舎の利便性を担保するプロムナード

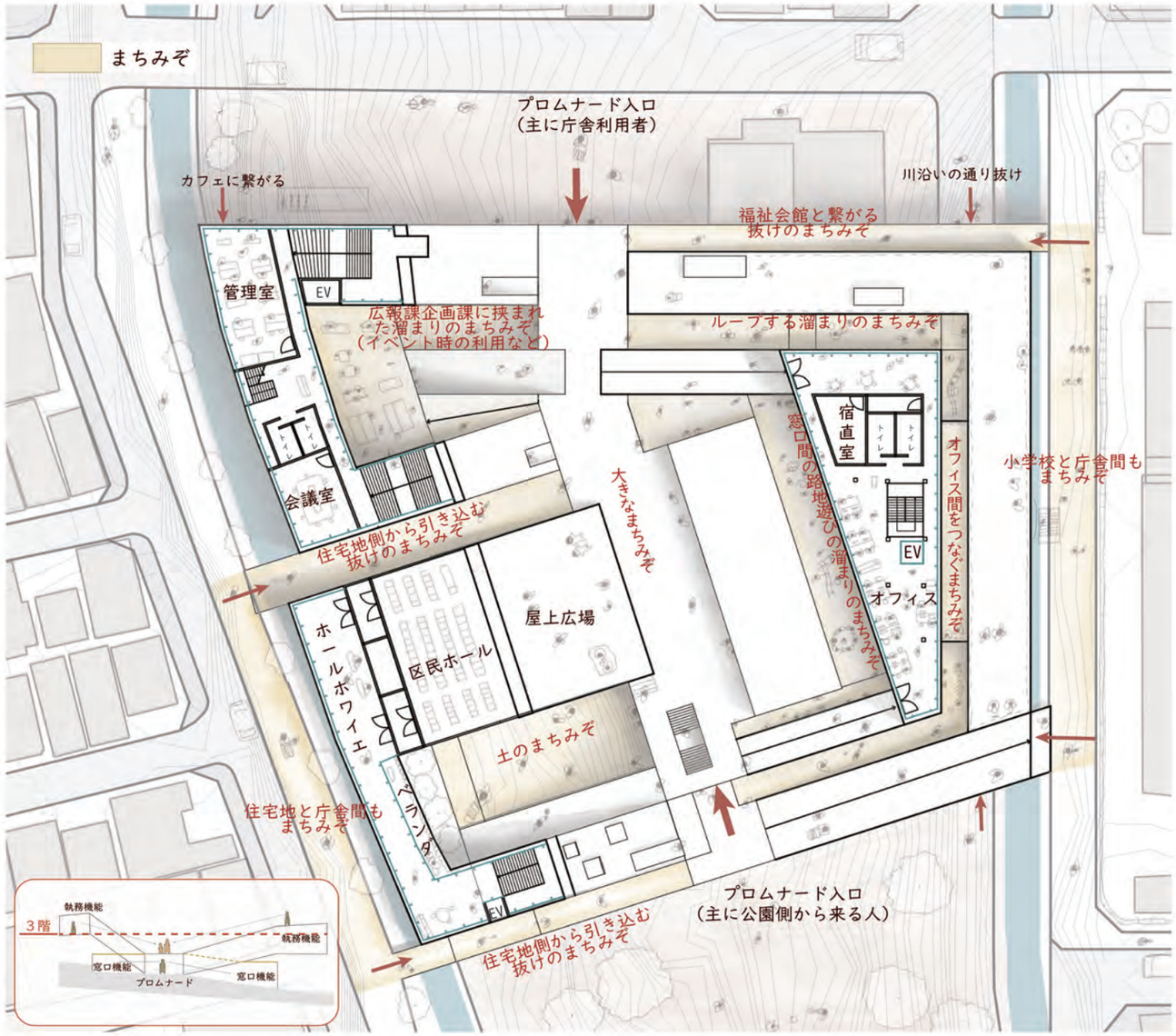


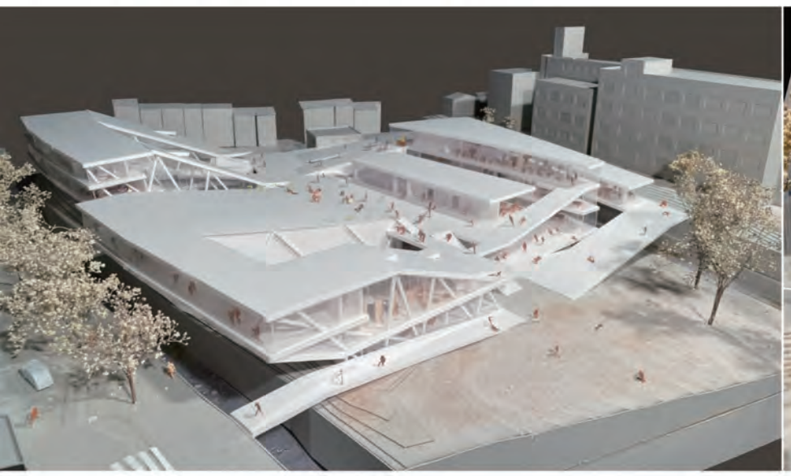
ここに東住吉区役所を移転する。
かつては戸建て住宅が広がる住宅地だった。しかし、近年は集合住宅へと建て替わり、道は整備されたため車などの交通量が多い。
そのため、昔存在していた路地を媒介にした地域のつながりが失われた。
全方向に広がる住宅地からはまちの人々が生活の一部として利用でき、南側の今川公園へと遊び場空間が延長さることが期待される。さらに東側に位置する大阪市立今川小学校から小学生の引き込みも可能である。

▽1階平面図



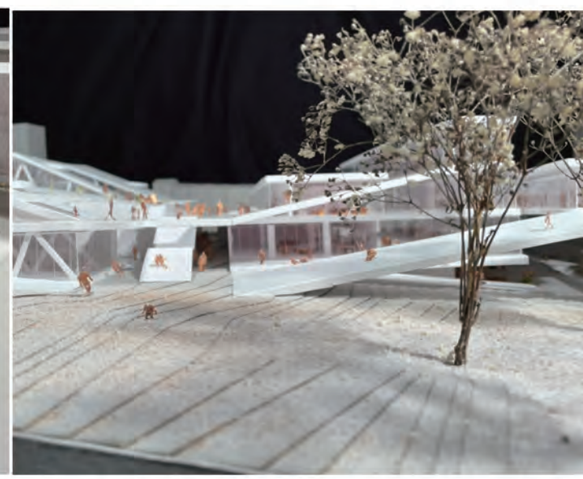
▽3階平面図兼屋根伏せ図



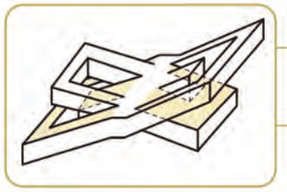






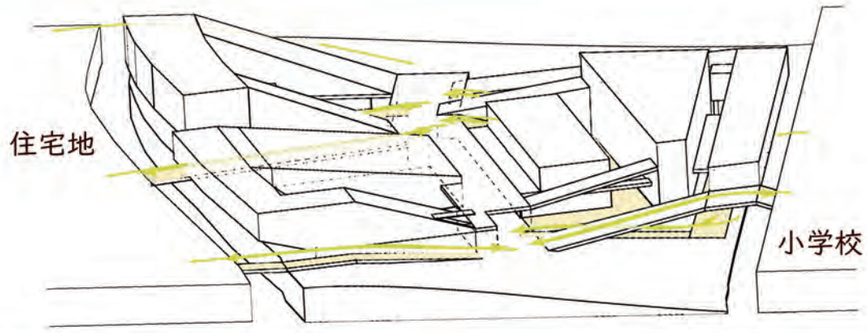


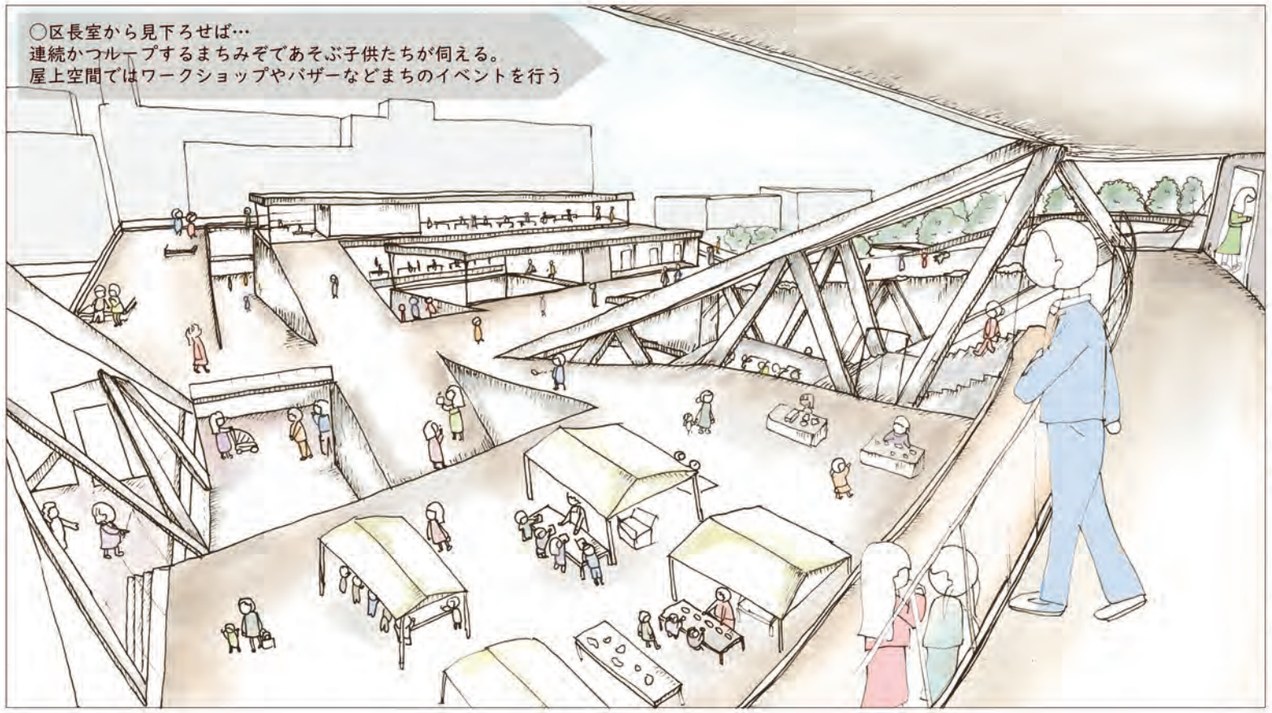
抜けのまちみぞ

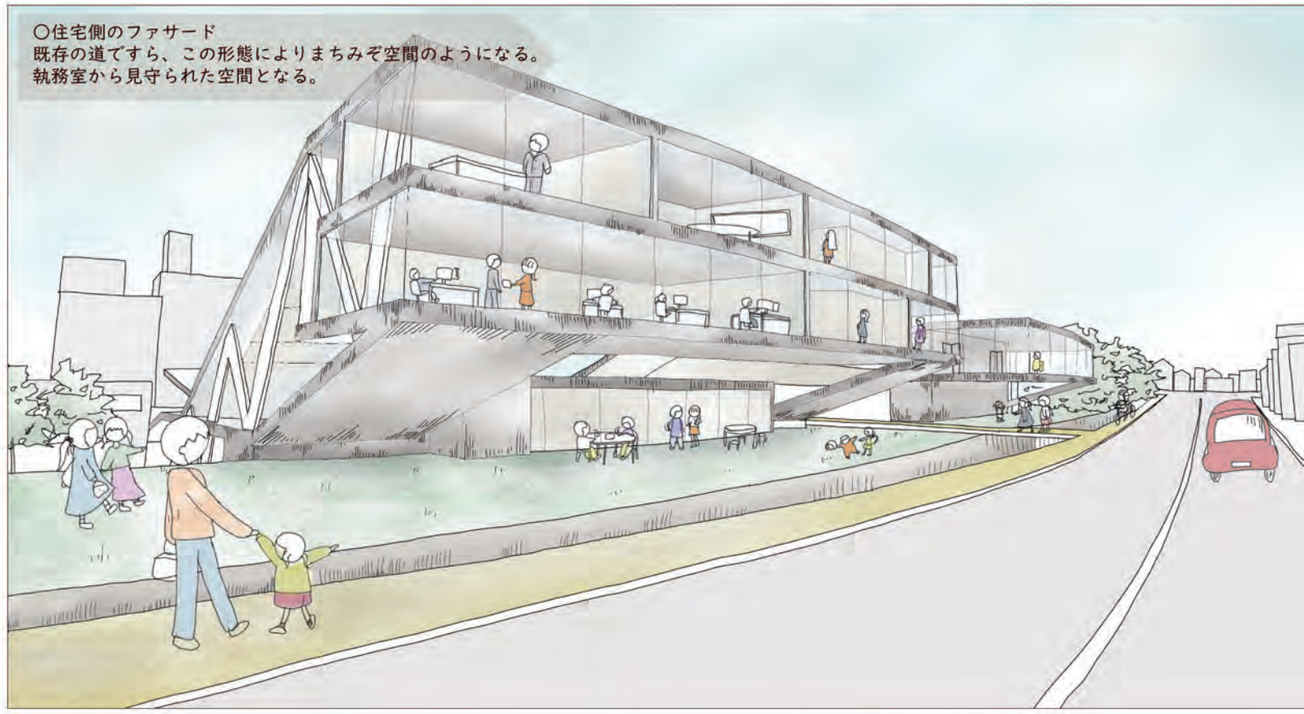


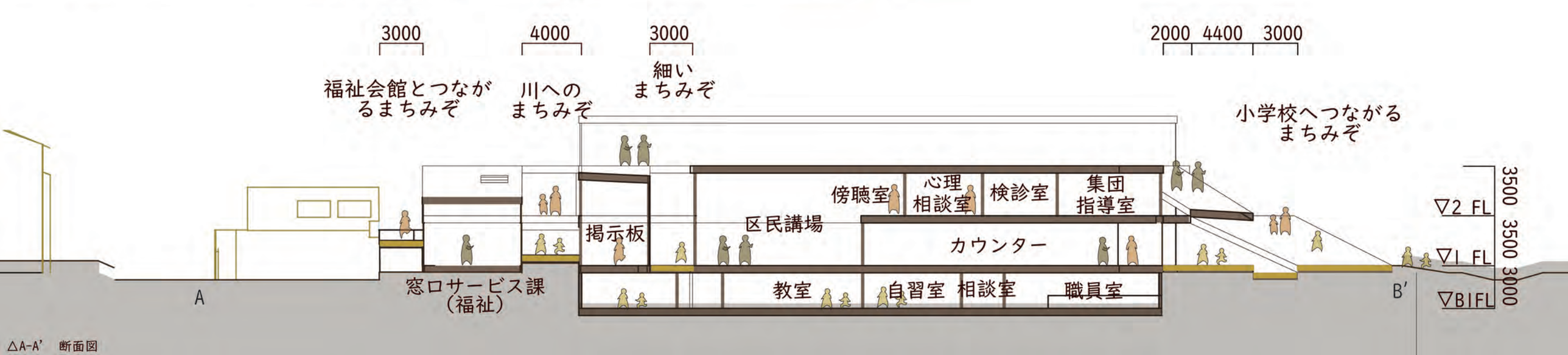
両岸をつなぎ、通り向けられるまちみぞ

小学校側や住宅地側から自由に通り抜けができるため、庁舎の利用に関わらず訪れられるみちとなる。
さらに各窓口サービス課からもこの抜けのまちみぞに人々があふれ出て自由に移動できる。



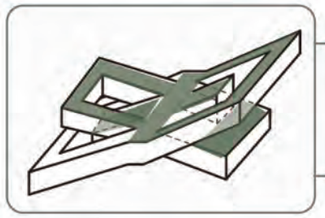






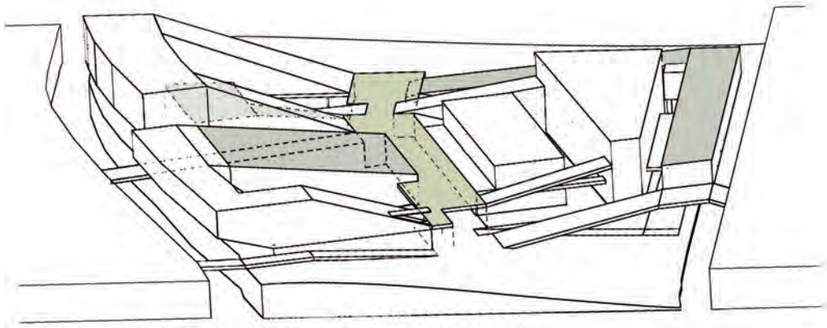
△A-A′ 断面図

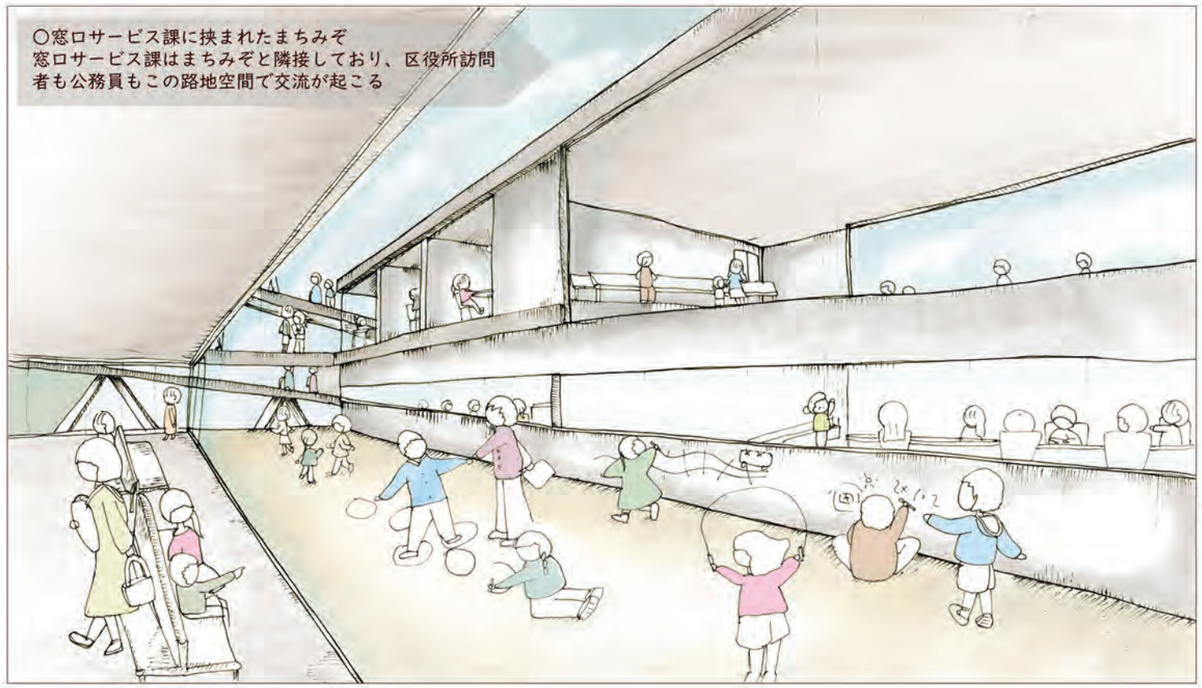
溜まりのまちみぞ

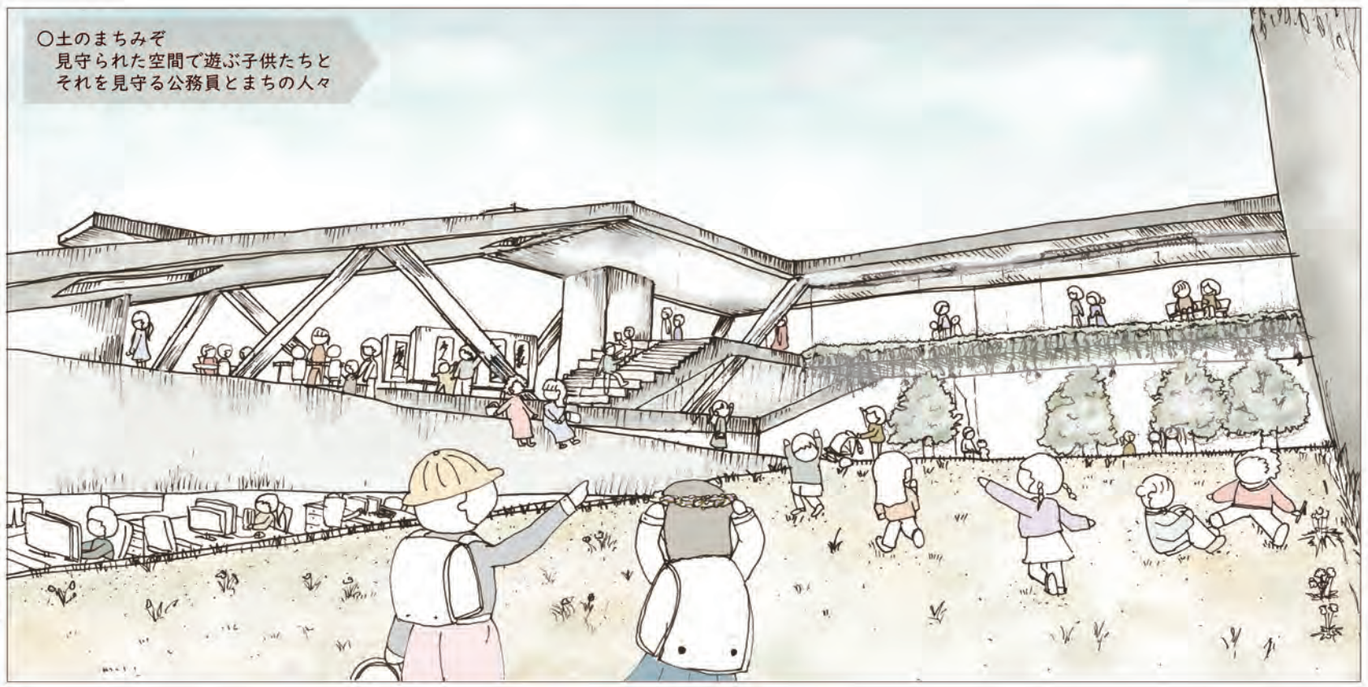


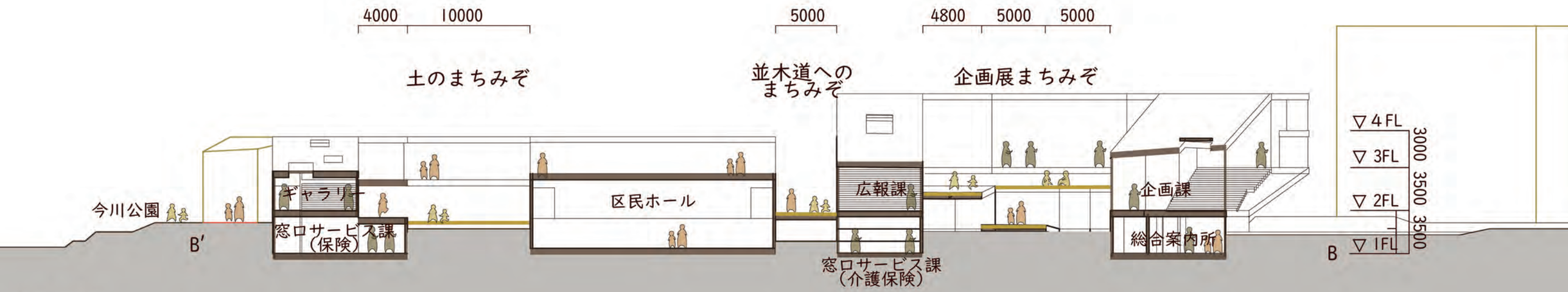
こどもが路地遊びできる溜まりの場や
イベント時に使える広場となるまちみぞ

行き止まりのまちみぞやループするまちみぞはたまりのまちみぞとして人々の居場所となる。プロムナードの真上にあたる部分は斜めの空間に囲まれることで公務員やまちの人々の視線が集まり、そして溜まりの場となる。



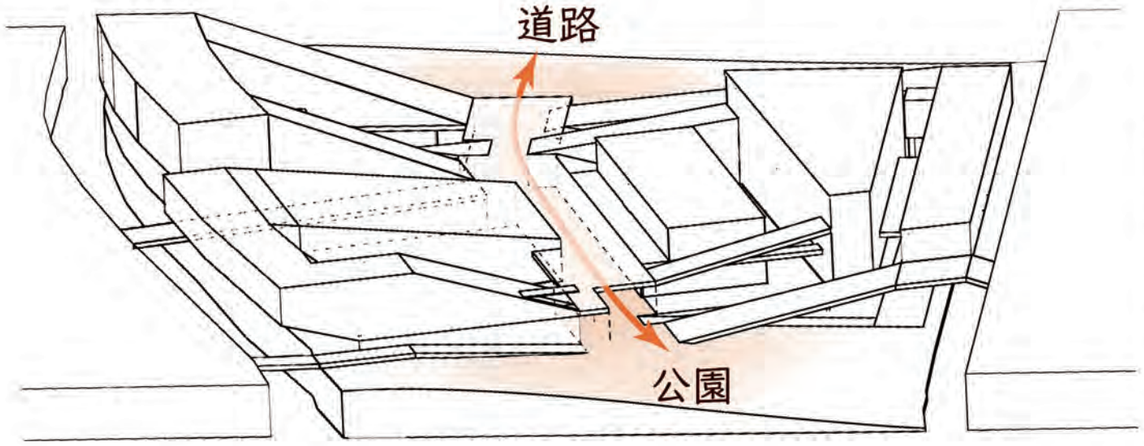




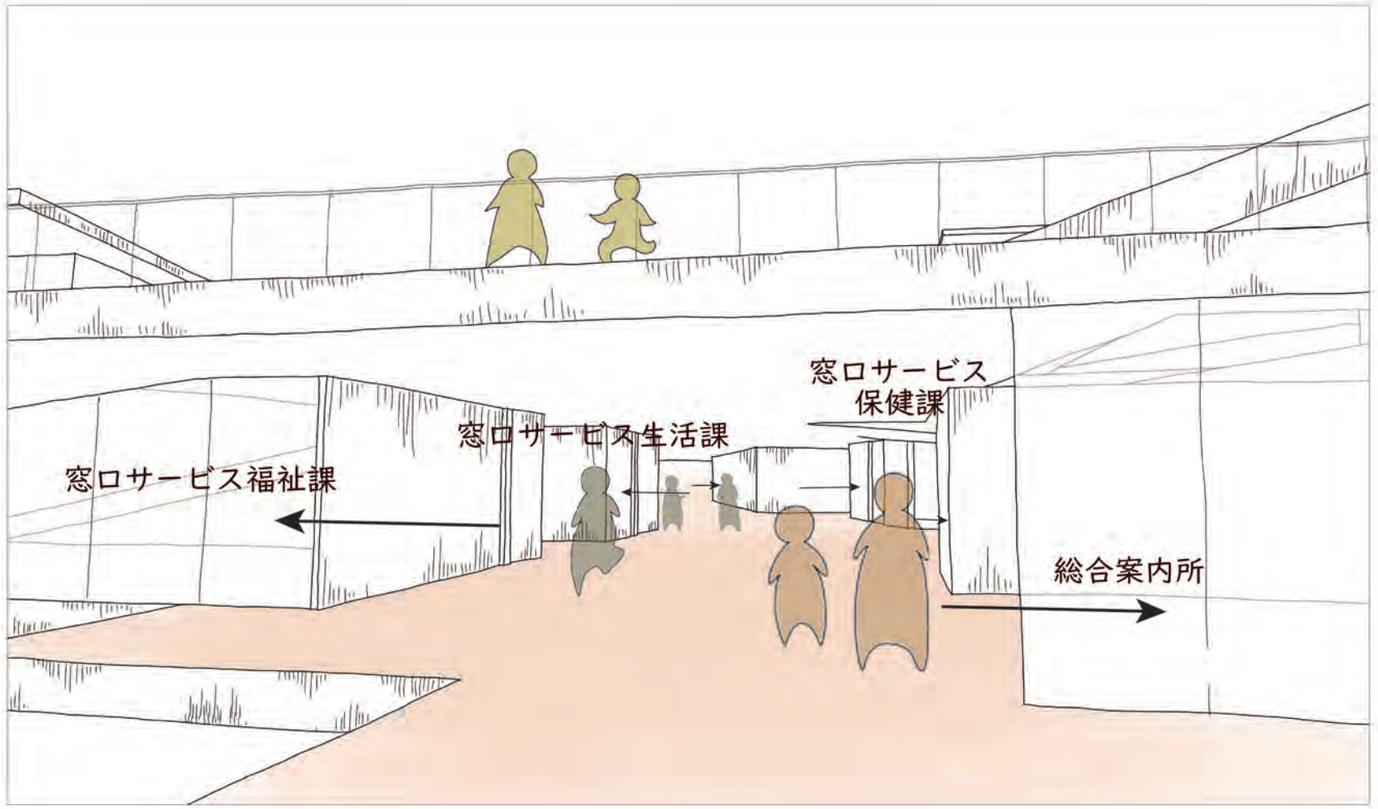


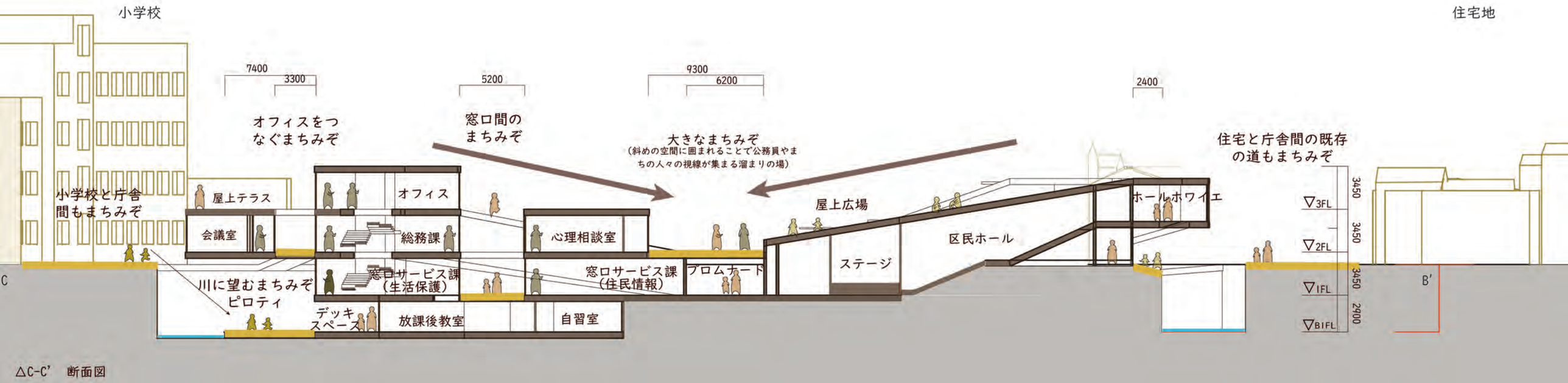
△B-B′　断面図

抜けと溜まりをつなぐプロムナード



各窓口サービス課にスムーズにアクセスできるため、庁舎としての利便性を担保している。北方向は道路に面しているため庁舎利用者のファサードとなり、南側は公園へとつながるため、遊びの延長で入ることが可能。





△C-C' 断面図